×ニバーが抜けている。
隠喩は特徴の必要有

戸隠全山縦走記録

信州大学山岳会上田山岳部

昨年の春以来、私達の部では数回戸隠で合宿を行なってきた。そして昨年春本院ダイレクト尾根の第二登に成功し、今年は一応の区切りとして全山縦走を行なった。

戸隠は妙高山群と共に妙高火山群を形成し、郡界尾根（東山、堂津岳）で妻、高妻、表山、西岳、一夜山より成る大きな山塊である。海底火山が隆起したものといわれ、郡界尾根西側や表山、西岳の東側は大きく崩解し、反対側も急激におちこんでいる。岩質はもろく、集岩のため岩登りには適さないが、積雪期にはおもしろくなる。

今まで余り知られず、観光地としての外栄えていたが、グループ、モレーンの奮斗により開拓されてきた。そして今年は雲稜、みどり等十数パーティが入山している。しかしまだ未踏のルートや稜、尾根が多く今後発展する余地が多く残されている。私達の部で

~~も、さらに発展させていこうと考えている。~~

~~この記録が今後の資料になれば幸いです。~~

〔行動記録〕

3月20日（快晴）

長野よりバスで鬼無里へ。ここから歩いて西京へ行く。冷沢からとりつく初めの計画を変更し根上から別れて落合にはいり、ここからハヶ山にとりつくことにする。落合は家が4ケンで、若い人が町へ出たため人口10人になってしまったという部落である。川辺いに道がついているので、それに従って進む。川が急に左にまがる所で道が二つにわかれる。一応ここにテントを張り、偵察を出す。左の道を川ぞいにいくことにする。

~~参考~~ タイム

鬼無里11:10——落合14:00——テント場15:00

3月21日（曇）

テント場を出て約50分でト千平につく。古い小屋一戸とかなり大きな池がある。手前の大きな尾根にとりつく。下部はゆるやかだが上にいくに従い急になる。3時間で主稜線

に出る。後立山のやまなみが美しい。八方山までは単調な登りで、いくつかのピークをこす。八方山の南面は大きな岩壁になっていて物見山から来た場合かなりきびしそうだ。八方山から黒鼻山までは約10のピークがある。尾根が北へ曲るところからやせ尾根が3ケ所ある。雪も大きくはり出しているので注意しなければならない。山頂の手前のピークにテントを張る。

~~行程~~ タイム

テント場6:30—稜線9:30—八方山11:00—テント場15:00

3月22日（吹雪のち晴）　流氷

3月23日（雪時々晴）

黒鼻山はいくつかのピークの集合した山だ。晴れているので周囲がよくみえる。谷の峰尾根が濁沢と本谷にはさまれ、大きく横たわっている。西岳への岩稜はいくつか登れそうだが、西尾根はやはりきびしそうだ。一担下ってから東山へ向う。西側は大きく切れおち

東側も裾花川までおちこんでいる。東山の岩峰が大きくせり上ってきている。東山は東西二つのピークをもち、北側は深く切れている。そのため東側のピークより下降する。しかしこの尾根も次のピークへは続かず終っているので、右へおりて主稜へ移らなければならない。ガスがかれてきて視界が悪くなった。次のピークへは100m程登るが、地図にはのっていない。この下りは左端の細い稜を下る。次のピークが中西山になるはず(地図によれば)であるが、実際はもう一つ先であり、地図の誤りではないか。この下降路は急でフィックスが必要だ。天候が悪化したので支稜にテントを張る。

~~参考~~ タイム　テント場7:10—黒鼻山7:45—東山9:30—テント場12:00

3月24日(雪後晴)

昨夜からの吹雪で積雪は60cm以上、ワカンをつけてもひざまである。岩稜をフィックスしておりる。ここから少し登った所が中西

山である。ずっと左側が切れおち右側に大きな雪をもっている。稜線も細い。いくつかの小ピークを通るが下りなので苦にならない。尾根もだんだん広くなってくる。最底部が最近できた苗地センターからの道との出合いである。奥西までは幅の広い尾根であるが、所かまわず雪がでている。風の作用でできた雪紋がきれいだ。奥西につくころ空が晴れて、東山までのルートがはっきりわかる。堂津岳の登りにかかるとすぐ、幅広い尾根はおわり例の左が切れおち右に雪をもった尾根にかわる。丁度真中あたりにテントを張る。

~~参考~~タイム　テント場8:10—出合11:05—奥西山12:30—テント場15:20

3月25日（快晴）

引きつづき尾根を登るが、途中氷っていて相当きびしいので、頂上へ向わずに右側へトラバースする。堂津岳は南北に長く、東側にいくつかの側稜をもっている。これを三つ程こえると頂上直下のコルである。大きなピー

クと小さなのを一つがつこすと、ニグロ沢と濁沢の分水嶺に出る。ここから相当急な長い稜を登る。四つ目のピークが1855mのピークである。乙妻の西壁が雄大にそびえている。その左に妙高山群、後立山と山なみが続く。二つピークをこえると次が合の峰とのジャンクションである。乙妻の直下のコルでテントを張る。偵察を出しフィックスする。

~~参考~~ タイム　テント場 6:00 — 堂津岳コル 8:30 — 分水嶺 9:35 — 1858m, 12:10 — テント場 14:40

3月26日（快晴）

乙妻への登りはかなり急な斜面で、150m程で岩稜のとりつきである。40mザイルで3ピッチフィックスして登る。夏道があるらしく針金がはってある。ここから頂上まで約200mある。右側に大きな雪が発達していて、下は200m位切れている。高妻山頂下にちょっときびしい所がある。左石英に切れている。フィックスして登る。頂上から

はほぼ夏道どうりに下る。雪がくさってアイゼンが重い。かなり急だ。雪　の向きが逆になり、左側に出ている。樹木の付近はうまるとたいへんだ。←不動の小屋の内にテントを張る。

~~参考~~ タイム　　テント場6:35—取り付き6:35—乙妻山9:05—高妻山11:05—五地蔵山13:30——不動15:05

3月27日（風雨強し）

沈澱、一名下山

3月28日（曇時々晴後雪）

昨日の風雨により雪がくさって歩きにくくなった。一不動から一休尾根へ登り、小さなピークは右へトラバースしていく。ほぼ夏道どうりだが、雪のため凸凹が少ない。雪　防止がうまる程の残雪がある。複雑な尾根のためルートファインディングが難しい。雪には十分注意しなければならない。尾上清水から八方睨への登りはかなりきつい。八方睨からの眺望はすばらしい。本院ダイレクト尾

根を観察して主稜線を下る。トレースがあるが、ないかと思いだ。伸るい斜面をみつけテントを張る。雪がいりました。

~~参考~~タイム　平不動7:15——休尾根8:05——三角点9:10——戸隠山12:10——八方睨11:20——テント場13:45

3月29日（快晴）

テント場からコルまで下り、右にトラバースしとなりの稜線にとりつく。急な登りだがアイゼンがきいているので苦労は少ない。夏道の通りに行くとまず爪越峰につく。本院岳はトラバースしてからザックをおいて頂上に登る。ダイレクト尾根上部、仏沢、P1尾根が一望の下にみえる。西岳の手前にキレットがある。鎖があるがザイルを使って登る。頂上から西尾根が西側に大きくはり出している。下部が壁になっていてきびしそうだ。P1までは部分的にはきびしい所もあるが、様相は地図からうける印象とは大部ちがう。P2の手前はやはり大きなキレットになっている。最

底部におりてP3へ登ろうとするが、ルートがよくわからないため、岩稜を登るのをやめ、沢を偵察し、200m程下り、P3の西側稜の末端からトラバースしてP3とP4の間の沢を登る。P3のピークに立てなかったのが心残りだが、やむをえないだろう。P2、P3共に東側からみると鬼面のような感がする。P4の降りにが多少不も多く苦労するがあとはなんともない。P5でよく偵察しなかったため、誤ってアブキ谷二尾根の方へ降りてしまった。疲労と空腹のためテントを張る。偵察の場合注意してやらなければならない。

~~参考~~タイム　テント場6:50—爪越峰8:30—本院岳8:50—西岳キレット9:20—西岳9:50—P1 11:00—P2 11:40→P3キレット12:30—P4 14:35—P5 15:35—P6 16:00—テント地16:15

3月30日（曇後ち雨）

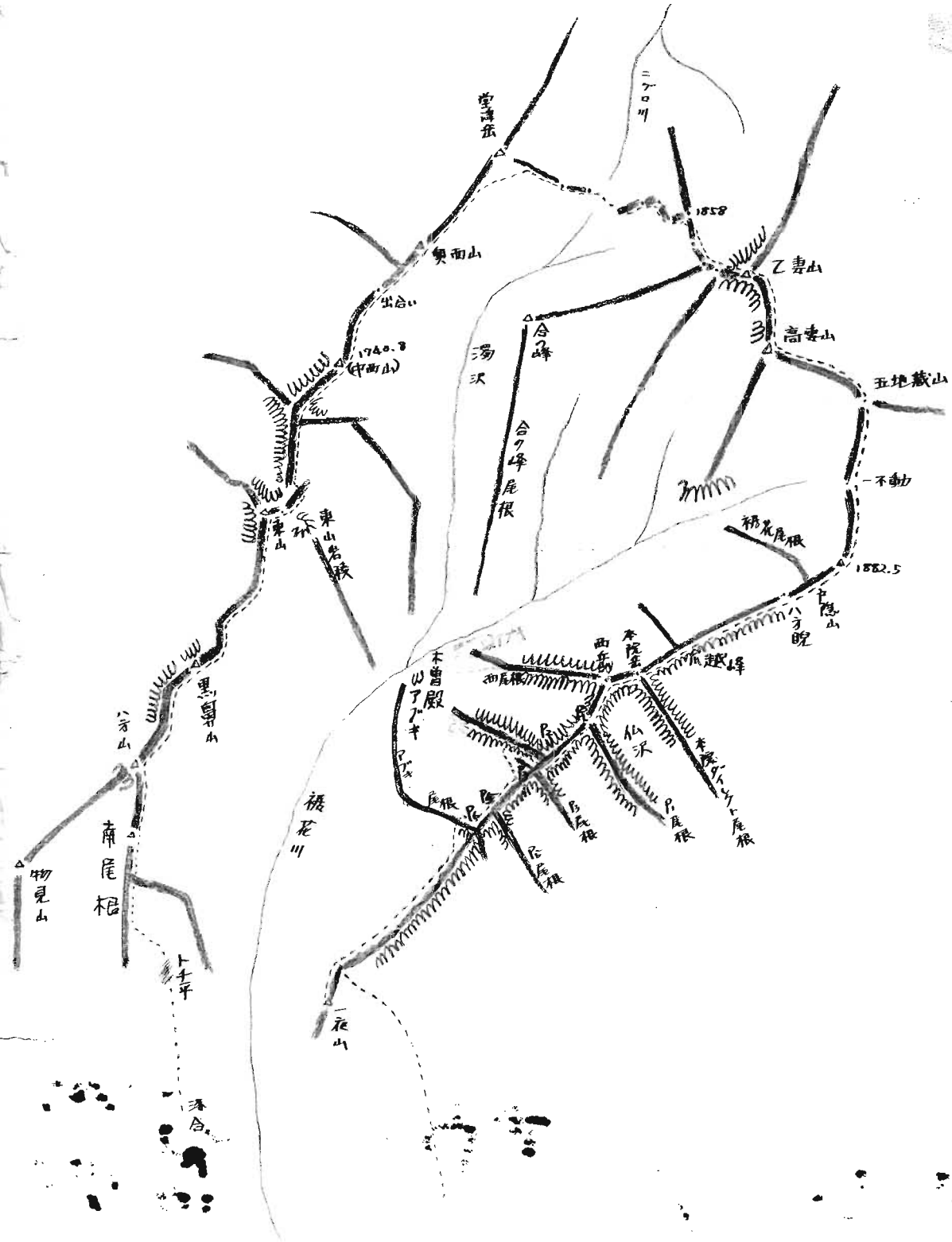
テント場より左におり、トラバースして主尾根にもどる。一夜山までは洗濯板のようで、20以上のピークがある。高度もさがったた

め樹林帯にはいりブッシュがひどい。一夜山のコルにつくとホッとする。天候が悪くなってきているのでザックをおいて一夜山にむかう。急坂を直登し1時間で頂上につく。休む間もなく下山する。コルからは長グツの足跡があったのでこれに従って下る。土がみえはじめた所で、オーバーシューズ、ズボン、アイゼンをはずす。しばらく田の中をいくと古い家が一戸ある。ここから沢ぞいに下る。地すべり地らしく、部落総出で道普しんをしていた。途中阿原で一休みし賊又へ向う。バス時間に間があるので歩いて鬼無里へ行く。ついに雨がふりだした。

~~参考~~タイム　テント場 6:35 — P16 7:20 — コル 10:30 — 一夜山 11:20 — コル 11:45 — 賊又 14:35 — 鬼無里 15:20

~~以上が私達が行なった縦走の概略である。この合宿の成果を基礎に、今後も戸隠山のまだ未開拓の所にはいりこんでいくつもりです。~~

[redacted]


堂満岳
ニゴロ川
1858
奥面山
出合い
乙妻山
合峰
湯沢
1740.3
(中面山)
高妻山
五地蔵山
合の峰尾根
不動
東山
東山岩稜
裾花尾根
1882.5
中間山
八方睨
西岳
本院岳
西尾根
越峰
木曽殿
ツアブキ
黒菱山
八方山
仙沢
裾花川
南尾根
物見山
トチ平
一夜山
清合